



校長室だより

学校と家庭・地域を結ぶ架け橋通信

第16号 令和3年11月9日

小美玉市立美野里中学校

生徒会選挙を通して民主主義を考える

昨日、立会演説会と生徒会役員選挙を行いました。候補者は、これまで、オンライン上でPR動画を作成・公開したり、朝実際に校門に立って挨拶運動とともに投票を呼びかけたりしていました。

立会演説会もオンラインで行いました。候補者が順番を待つ部屋に私も行き、最後に挨拶をさせてもらいましたが、さぞや緊張したことと思います。私も中学校時代、生徒会役員に立候補したことがあるのでよく分かります。でも、立会演説会が終わり、部屋を出て行く候補者の顔は充実していました。勇気をふり絞って立候補し、選挙活動をしてきた全ての立候補者の皆さんに敬意を表したいと思います。この経験は、必ず今後役に立ちます。

私も選挙公報で、候補者の公約を見させてもらいました。その中からの抜粋です。

挨拶が飛び交う活気ある学校にします。

この候補者は、そこに問題意識を持ったわけです。まず、そこが素晴らしいと思います。では、

生徒としてどのようなことをすれば、これが達成できますか。

そして、

そのために、自分は何ができますか。

次世代の担い手となるためには、これが大切だと思います。「主権者」と「傍観者」の違いは、この「参画意識」の差だろうと思います。少なくとも、今回の選挙に立候補した皆さんは、学校の課題を意識することができました。立候補者以外の生徒も意識をすれば学校をさらによくする「主権者」になれます。

よく、「地方自治は、民主主義の学校」と言われますが、身近な問題に意識を持てるか持てないかで、社会の見方は変わってきます。

テレビで、池上彰さんのニュース系バラエティ番組を観たとき、回答者のタレントの中に、驚くほど社会問題に詳しくたり、問題意識が高かったりする人がいて、派手な外見とは別に、知性を感じたことがありました。

意識は変えられます。意識が変わると、いろいろな情報が自分のアンテナに引っかかってくるようになります。そうすると、ニュースが面白く見られるようになり、自分との関わりがちょっとずつ見えてきます。

現状を知り、課題に対して、自分が参画していく意識を芽生えさせ、民主主義の主人公になっていきましょう。

若い人の投票率がなかなか上がりません。



この状況の中、自分たちは今後どんなことができますか。どのような対策をとれば、若い人たちは投票すると思いますか。

実社会では、価値観が多様化している中、なかなか解決が難しい問題も山積していますが、難題を解く第一歩は足下にあるのです。

